

糖タンパク質の 糖鎖構造解析

Protein glycomics by Glycoblotting method

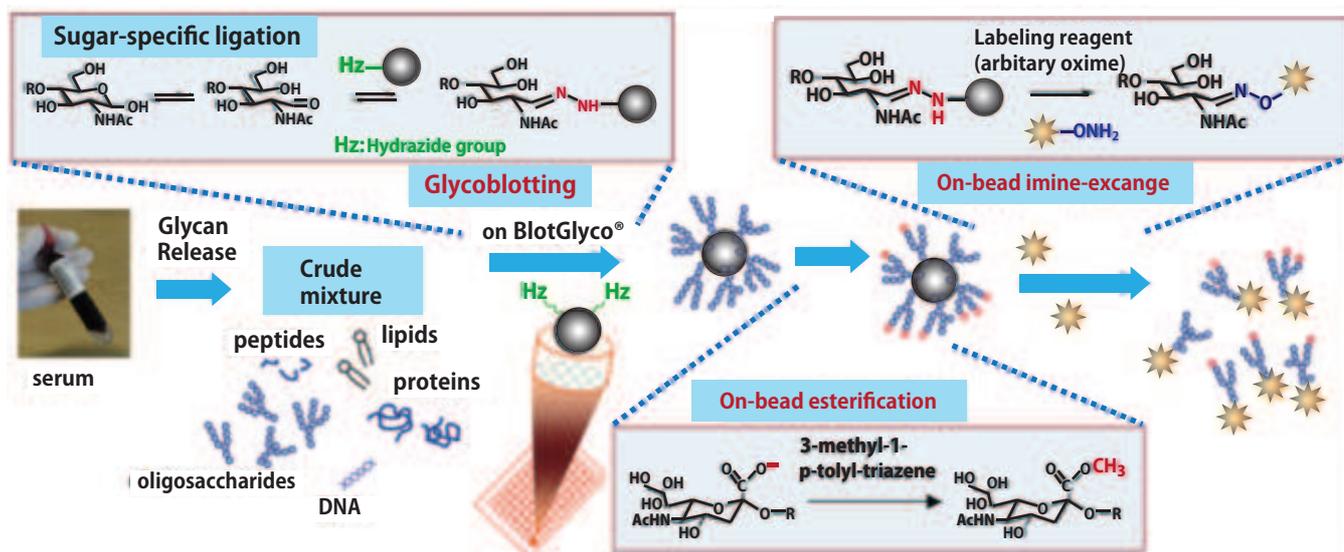
Glycoblotting法と質量分析を駆使した糖タンパク質の糖鎖プロファイリング

『培養細胞、体組織、粗精製タンパク質などに含まれる糖鎖を網羅的に調べたい。』

『発生段階や病態、薬剤処理の前後などによって変動する糖鎖マーカを探したい。』という方にお勧めです。

■ Glycoblotting法とは？

「Glycoblotting法」は、化学選択的な糖鎖捕捉反応に基づいて、複雑な生体試料から糖鎖だけを網羅的かつ定量的に捕捉して解析する技術です。具体的には、アミノオキシ基またはヒドラジド基を有するビーズで糖鎖だけを捕捉し、ビーズ上でメチル化、ラベル交換反応を行うことで、糖鎖解析を可能とする方法で、この手法を用いて培養細胞、体組織及び粗精製タンパク質に含まれる糖鎖（N型糖鎖、O型糖鎖、糖脂質）を解析します。

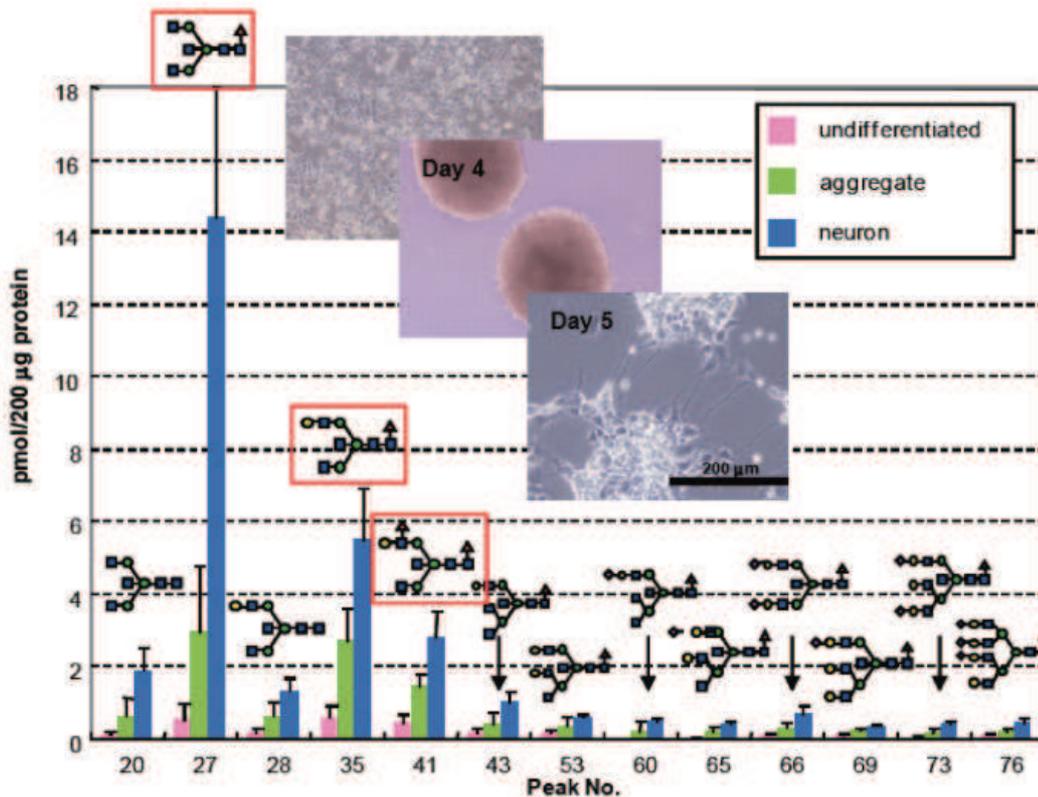


参考文献:
Angew. Chem. Int. Ed., 2005, 44, 91-96. / Clin. Cancer Res. 2006, 12, 2506-2511
Angew. Chem. Int. Ed., 2007, 46, 8808-8813 / Anal. Chem. 2008, 80, 1094-1101.
Mol. Cell. Proteomics. 2010, 9, 523-537. / ChemBioChem 2013, 14, 73-82

実施例や詳細な仕様は、
裏面をご覧ください。



■【実施例】 神経細胞の分化と糖鎖変化



(Mol Cell. Proteomics 2010, 9, 523-537)

■ 仕様

《 解析可能な検体・必要量・納期 》

N型 糖鎖解析

検体の種類	必要量	納期の目安
血清・血漿(ヒト)※	100 µL	2週間
血清・血漿(マウス)	50 µL	2週間
細胞	10 cm dish1枚分	4週間
組織※	10 mg	4週間
タンパク質	100 µg	2週間
FFPE切片	1 cm ² , 3 µm×3	4週間

※臨床検体については、感染症法で定められた特定病原体、およびBSL3以上の検体を受け入れることができません。

O型 糖鎖解析

検体の種類	必要量	納期の目安
血清・血漿(ヒト)※	100 µL	4週間
血清・血漿(マウス)	50 µL	4週間
タンパク質	100 µg	4週間

《 報告内容 》

- 内部標準による規格化データ一覧(エクセルファイル)
- 推定構造一覧
- 作業報告書



株式会社ファーマフーズ アプロサイエンスグループ

〒770-0865 徳島県徳島市南末広町4-53 エコービル4階

■Tel:088-678-6372 ■Mail:bio@apro-s.com

■Url:https://apro-s.com/

本社 〒615-8245 京都府京都市西京区御陵大原1-49

販売店